



## 「人の話を聞く(聴く)」ことの大切さ

校長 鈿持 利行

緑深まる中での4月は、出会いと別れを実感して新たな一步を踏み出したという感じがします。ご家庭での子どもたちの様子はいかがでしょう。新しい学校生活のリズムに慣れてきているのでしょうか。新しい担任の先生・友だち・教室など、一年進級した思いを胸に楽しく登校していれば何よりです。5月の連休明けには、今一度、学習習慣、生活習慣、そして生活リズムを再点検して学校生活・家庭生活を送ってほしいと考えています。

人の話を聞く。だれもが当たり前におこなっていることですが、実際のところ、本当にむずかしいと思います。最近、生徒と話をしている、あるいは生徒同士の話を聞いていると、特にそう感じる場合があります。互いが自分の言いたいことだけに意識を向けていて、相手の話にはあまり耳を傾けない。あるいは逆に、話題を合わせ、同意や共感だけを目的にした会話も多い。こちらは一見、相手の話を聞いているようだが、相手が何をどう言おうと「うん、そうそう」というだけだから、やっぱり聞いているとは言えないのではないのでしょうか。そういうコミュニケーションの形が目立ちます。“聞く”ことができるということは、相手を認め、受け止めるということです。相手を理解しようとするということでもあります。“聞いてもらえる”ということは、自分自身を受け入れてもらっている、関心を向けてもらっている、理解してもらっている、そして大切にされているという、自分自身に価値があることを自らが実感するということなのです。この両方ができる子は、自分のことを大切にできるようになります。自己肯定感の低いといわれている昨今において、自分を大切にできるようになるために、この“聞く力”は、ぜひとも身に付けたい力だと思います。話を聞いてもらうということは、元来うれしいものです。しかし、その体験が少ないと、聞くことの大切さを子どもが感じることはできません。なので、親として一番意識したいことは、親自身が聞き上手になることです。お子さんの話を聞くときに何よりも大切にしたいことは、“共感すること”、“受け止めること”です。そして、“待つこと”です。たとえ大人でも、自分の話をきちんと聞いてくれる人がいたらうれしいです。まして子どもだとしたらどうでしょう。自分の目を見て親が真剣に話を聞いている、相槌をうっている、質問をしてくれる、こんなうれしいことってありません。話を聞いてもらえると、こんなにもうれしいものなんだという体験の積み重ねで、子どもも話を聞けるようになっていくのだと思います。ある本に、聞き上手になるための『話の聞き方“さしすせそ”』というものが載っていましたので紹介します。

「先に聞く」(子どもの話を待って聞きましょう)

「しっかり受け止める」(どんな話でもここが肝心です)

「すぐに割り込まない」(大人の悪い癖!子どもの話です!)

「先入観に気づく」(自分の価値観で聞かず、目の前の子供を見ましょう)

「その人を重んじる」(大切な我が子を暖かい眼差しで見つめてください)

学びは、すべて“聞く”ことから始まります。人の話をしっかりと聞ける集中力があれば、落ち着いてさまざまな課題をこなせるようになるので、自然と学力も向上するようになっていきます。また、親、先生、友だちとの関わりなど、話を聞くことで相手との関わりも良くすることができます。

“聞く”力を身に付けることは、大人でも難しいことです。“聞く”ためにお子さんをしっかりと待ってあげてください。これには根気がいります。今は少し時間がかかるかもしれませんが、将来のわが子のためにぜひとも辛抱強く取り組んでみてください。それが、家族の笑顔、幸せにつながっていくことだと思います。

## 各学年目標 & 先生方から

**【第1学年】 育てたい生徒像** ①規律や高松中の伝統を守る ②自分を高める努力をする ③互いに思いやりをもち仲間を守る ④学年、学級で責任ある行動をとり、自分の役割を果たす 生徒を育てたい。

《先生方から》

松岡先生：人とたくさんコミュニケーションをとり、自分を磨いていこう。「自分以外はみな『師』」です。

小口先生：挑戦しよう。失敗しよう。それを生かして成長しよう。

小宮山先生：人に優しく、自分に厳しく！

玉井先生：自分も他者も大切にして、幸せな学校生活をみんなで築こう。

藤田先生：「今、その時」を逃がさないようにする。

喜多見先生：慌てない、焦らない、諦めない。

鴨川先生：心も体も日々成長！周りとは比べず、自分自身をみつめよう。



**【第2学年】 育てたい生徒像** ①授業を大切にする生徒 ②集団生活のルールを守る生徒 ③自分の役割は責任をもって果たす生徒 ④1年生の見本になる生徒を育てる

《先生方から》

宮本先生：「子どもの見本になる」頑張ります。

梶原先生：食べた分だけ動く！！遊んだ分だけ勉強する！！何事もバランスが大事。

塩津先生：残り2年弱で「社会に出ても大丈夫」と言われるように、成長を見守っていきたいです。

塩畑先生：人にも物にも気を遣える人になってほしいです。友達でも先生でも相手に思いやりの気持ちをもって接してくれたらと思います。

森先生：心優しい生徒をもっと増やしていく1年にしたいです。

椎野先生：2年生の皆さんと共に“高みを目指す”1年にしたいと思います。1年間よろしくお願ひいたします。

**【第3学年】 育てたい生徒像** ①最高学年としての自覚をもたせ、連帯感を持ち、思いやりのある行動ができる生徒に育てる ②部活動や生徒会活動、学校行事などに積極的に参加する生徒に育てる ③自分の個性や適性を理解し、目標に向かって自己の進路を確立しようとする生徒に育てる

《先生方から》

吉崎先生：全員笑顔で卒業しましょう！！がんばれ！！

廣江先生：勉強も部活も行事も全てが自分の糧となります。自律から自立へ、  
一歩一歩成長していきましょう。

金ヶ瀬先生：いつか思い返したときに、頑張った、楽しかったと思える中学校生活にするぞ！！

菊地先生：中学生生活最後の年、次のステージに向かってみんなで進もう。

山崎先生：悔いの残らないよう、毎日を全力で生きよう。

吉田先生：最高学年としての自覚をもち続け、部活に行事に進路に、毎日完全燃焼していきましょう。

### 詫びと訂正

4月11日（火）に発行した学校便りに一部、訂正がございます。教員組織表の一学年の松岡 由紀江先生の教科が「数学」になっておりましたが、正しくは「英語」です。申し訳ございませんが、訂正のほど、よろしくお願いいたします。